

「北里大学における口唇口蓋裂患者へのチーム医療」

演者：石渡 靖夫 先生

いしわた矯正歯科 院長、北里大学形成外科 非常勤講師

東京医科歯科大学歯学研究科矯正歯科 非常勤講師

日時：2017年10月5日（木）18:00～19:30

場所：日亜ホール Blue（外来診療棟5F）

講演抄録

口唇口蓋裂は顔貌およびコミュニケーション能力に影響の大きい鼻口唇および口腔に患部が存在する比較的頻度の高い先天性疾患である。哺乳床などによる哺乳指導に始まり、外科手術、耳鼻科治療、言語治療、歯科治療、矯正歯科治療など多くの診療科の医師、歯科医師および言語聴覚士を含めたパラメディカルスタッフのチームでの治療が必要であり、成長終了後の鼻口唇修正術を終えるまで長期の治療を必要とする。その中でも口蓋形成術の治療結果はその後の多くの治療に多大な影響を与え、患者さんの一生を決める最も大切な手術であると言える。口蓋形成術で口蓋を延長することと瘢痕形成を最小限にして確実に裂を閉鎖することを両立させることは難しい技術ではあるが、近年方法としてはほぼ確立してきていると言える。口蓋形成術後の矯正歯科治療方針も患者の QOL に大きく影響してくるため、顔貌に配慮した矯正歯科治療を行うことと、欠損歯が存在する場合は補綴治療を行わずに良好な咬合状態にすることが重要である。海外と比較して日本では多くの施設が口唇口蓋裂の治療を行っているが、その治療結果としての患者の QOL は施設間で著しい差がみられるのが現状である。そのため口唇口蓋裂の治療を行う施設では自らの治療結果を客観的に評価すること、他の施設での治療結果との比較を行うことが重要であると考えられる。

一方、親の視点に立つと口唇口蓋裂の治療は長期に亘り多くの診療科が関わるため、治療の全体像やそれぞれの治療の意味を理解することが難しいという特徴が存在する。そもそも我が子が口唇口蓋裂であると知るまではこの疾患に関する知識がまったくない人も多い。そこで両親に対する適切な情報提供が口唇口蓋裂治療チームの大切な役割と考えられる。北里大学では両親への情報提供として口唇口蓋裂児を持つ親の会を年に二回開催している。一回は初回手術前後の患者の両親を対象にした各科の医師、歯科医師、スタッフによる講演とその後の親の交流会を行っている。もう一回は小学校入学前で顎裂部二次骨移植術前後の患者の両親を対象に同様な会を開催している。この会は両親の治療に対する不安の軽減と治療に対するモチベーションの維持に大いに役にたっていると考えている。

本講演では北里大学で行っているチーム医療の概要を紹介するとともに親の会の内容に関しても紹介する。最後に一貫治療を行った症例を供覧する。

※本講演会は、大学院医科学教育部、栄養生命科学教育部、口腔科学教育部の大学院特別講義ならびに、クラスターコアセミナー（骨とCaクラスター）を兼ねています。

勉強会参加者以外の医師、歯科医師、スタッフも参加可能ですので、多くの方々の御来聴を歓迎いたします。

連絡先：口腔顎顔面矯正学分野 渡邊 佳一郎

(088-633-7357 内線 5291) nabe@tokushima-u.ac.jp